



株式会社フコク(東証プライム:5185)  
2024年11月15日

## 第2四半期決算説明会 2025年3月期

70<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY **Yes, We Do!**

Copyright © Fukoku Co., Ltd.  
All Rights Reserved.

本日はお忙しい中、株式会社フコクの決算説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。  
本日の説明をさせていただきます株式会社フコク社長の大城でございます。

最初にフコク製品をご愛顧戴いている全てのお客様、株主の皆様、私達の企業活動を支えて戴いている全ての関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

説明の順番ですが、資料に基づき説明した後、皆様からのご質問にお答えいたします。ご質問はチャットにて受け付けますので、ご質問のある方は画面右側より入力をお願いします。

それでは、始めさせていただきます。

1. 決算のポイント
2. 2025年3月期第2四半期実績
3. 2025年3月期通期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. 新中期経営計画2026の進捗

本日は、御覧の通り、決算のポイントを簡単にご説明した後、2025年3月期の第2四半期実績、通期業績予想、セグメント・地域別の状況、株主還元、新中期経営計画の進捗状況の順番にてご説明させていただきます。

## 1. 決算のポイント

---

## 1. 決算のポイント

4/28

### 2025年3月期第2四半期実績

売上高は、自動車メーカーの生産台数伸び悩みの影響を受けるも、インド、米国の売上伸長及び為替の影響により **増収**

営業利益は、資源価格高騰による原材料費上昇等の影響を受けるも、合理化や変動対応等により **増益**

### 2025年3月期通期予想

不安定な海外情勢の継続、世界的な金融政策の見直し、資源価格高騰等が続くことを想定  
生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により収益力の最大化を図る

**売上高** 930億円 **営業利益** 48億円 の公表値を据え置く

### 配当

中間配当は、当初計画通り37.5円

期末配当は、当初計画37.5円を据え置きし、通期で75円を計画

2025年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

はじめに決算のポイントですが、第2四半期の売上高は、自動車メーカーの生産台数伸び悩みの影響を受けましたが、インド、米国の売上伸長及び為替の影響で増収となりました。

また、営業利益は、資源価格高騰による原材料費上昇等の影響を受けるも、合理化や変動対応等により増益となりました。

これらを受けまして今期の通期予想につきましては、一部の自動車メーカーの稼働停止による生産減少、不安定な海外情勢の継続、世界的な金融政策の見直し、資源価格高騰等が続くことを想定しています。

一方で、生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により収益力の最大化を図るため、売上高930億円、営業利益48億円の公表値は据え置きとします。

また、中間配当に関しましては、当初計画通り37.5円といたしました。期末配当予想は、外部環境が不透明な状況ではありますが、当初計画37.5円を据え置きとし、通期では75円を計画しております。

## 2. 2025年3月期第2四半期実績

次に2025年3月期上期の実績を報告いたします。

## 2. 2025年3月期第2四半期実績

### 業績概要

(単位：百万円)

	2024年 3月期	2025年 3月期	前年増減額	前年増減率
	第2四半期 実績	第2四半期 実績		
売上高	42,950	<b>44,585</b>	+1,635	<b>3.8%</b>
営業利益 (売上高対営業利益率)	1,059 (2.5%)	<b>2,060</b> (4.6%)	+1,001 (+2.1pp)	<b>94.5%</b>
経常利益 (売上高対経常利益率)	1,390 (3.2%)	<b>2,221</b> (5.0%)	+831 (+1.8pp)	<b>59.8%</b>
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,047 (2.4%)	<b>1,542</b> (3.5%)	+495 (+1.1pp)	<b>47.2%</b>

※pp=パーセンテージポイント

2025年3月期上期の実績は、ご覧の通り、売上高は前年同期比3.8%増の445億8千5百万円となりました。

営業利益については、前年同期比94.5%増の20億6千万円となりました。こちらは、原材料費等の上昇を合理化や変動対応で吸収したことによるものです。

経常利益は、前年同期比59.8%増の22億2千百万円となりました。

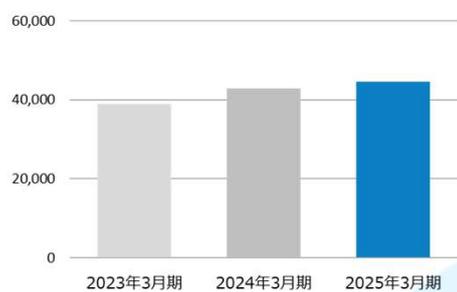
また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比47.2%増の15億4千2百万円となりました。

以上のように増収増益を達成しております。

## 2. 2025年3月期第2四半期実績

経営実績推移 (上期)

売上高



(単位：百万円)

営業利益



経常利益



当期純利益



2025年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去3年間の上期の実績を示したものです。

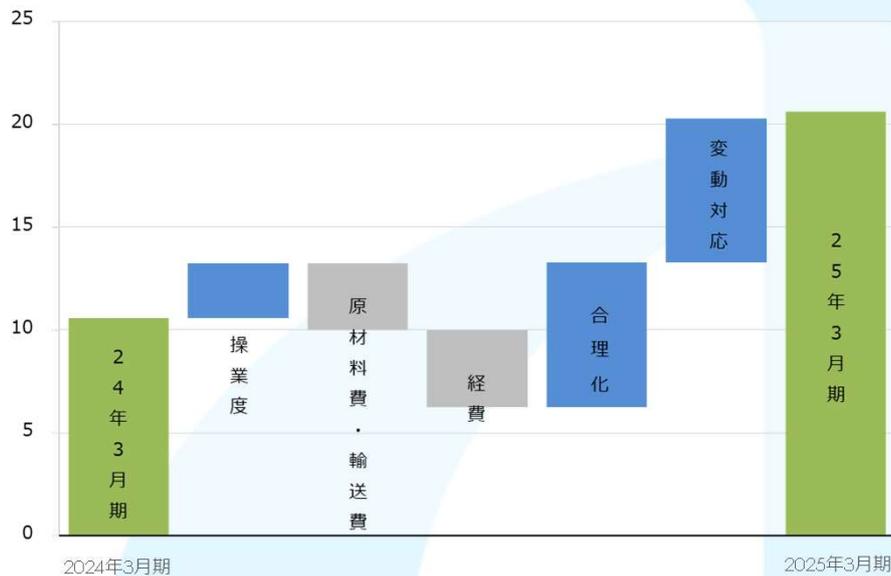
売上高は、自動車メーカーの生産台数伸び悩みの影響を受けましたが、インド、米国の売上伸長及び為替の影響により右肩上がりで増収となっております。

営業利益は、次のページで詳細をご説明いたしますが、原材料費上昇等の影響を合理化や変動対応により吸収し、増益となりました。経常利益・当期純利益も同様に、増益となっております。

## 2. 2025年3月期第2四半期実績

差異要因 営業利益（前期比）

（単位：億円）



このグラフは対前年比上期の連結営業利益増減を要因別に示したものです。

マイナス要因としては、資源価格高騰による物価上昇の影響を受けて、原材料費・輸送費、経費でマイナス7億円となりました。経費の内訳といたしましては、戦略的なベースアップによる労務費の増加、DX投資等、合計約4億円となっております。

一方プラス要因としては、操業度の増加、合理化、変動対応で16億円を挽回し、前年同期ベースで大幅増益を達成しております。なお、合理化案件については、歩留まり向上、検査工程の自動化等を実施しております。

## 2. 2025年3月期第2四半期実績

9/28

### 財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

(単位：百万円)

	2024年3月期 実績	2024年9月期 実績	前年増減額
現金及び預金	12,011	11,289	△ 722
受取債権	20,591	20,640	49
棚卸資産	11,427	11,867	439
その他流動資産	1,686	1,677	△ 9
流動資産計	45,718	45,475	△ 243
有形固定資産	26,695	28,729	2,033
その他固定資産	3,619	4,037	417
固定資産計	30,315	32,766	2,451
資産計	76,033	78,242	2,208
借入金	11,525	12,572	1,046
支払債務	12,330	9,799	△ 2,531
その他流動固定負債	10,167	10,311	143
負債計	34,023	32,682	△ 1,341
株主資本計	34,780	35,807	1,027
非支配持分	2,472	2,614	141
その他	4,757	7,137	2,380
純資産計	42,010	45,559	3,549
負債・純資産計	76,033	78,242	2,208

	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績
税前利益	1,390	2,387
減価償却費	2,208	2,404
売上債権の増(△)減(+)	△ 282	941
棚卸資産の増(△)減(+)	439	168
仕入債務の増(+ )減(△)	△ 27	△ 2,941
その他	△ 32	△ 885
営業活動によるC F	3,695	2,074
有形固定資産の取得	△ 1,808	△ 3,351
その他	△ 206	△ 4
投資活動によるC F	△ 2,014	△ 3,356
借入れによる収入	1,159	2,305
借入金の返済による支出	△ 1,570	△ 1,582
その他	△ 448	△ 633
財務活動によるC F	△ 860	89
フリー・キャッシュ・フロー	1,680	△ 1,281

- 有形固定資産取得により現金及び預金が減少し、借入金増加
- 前期末が金融機関休日のため、未決済の支払債務が含まれていた影響で支払債務が減少
- 有形固定資産の取得による積極的な投資
- 仕入債務の減少は前期末の金融機関休日によるもので影響は一時的

2025年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

財務体質の状況をバランスシートとキャッシュフローで見ると、ご覧の通りとなります。

海外子会社決算の為替換算の影響により、バランスシート全体が増加しており、固定資産につきましては、アセアン・インドにおける合理化投資等により有形固定資産が増加しております。

これにより、現金預金が減少し、借入金が増加しております。

また、有形固定資産の取得については、ROE向上を視野に効率的な投資を優先しております。

### 3. 2025年3月期通期業績予想

続きましてここからは、2025年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。

### 3. 2025年3月期通期業績予想

#### 業績予想

(単位：百万円)

	2024年 3月期	2025年 3月期	前年増減額	前年増減率
	実績	予想		
売上高	88,847	<b>93,000</b>	+4,153	<b>+4.7%</b>
営業利益 (売上高対営業利益率)	3,646 (4.1%)	<b>4,800</b> (5.2%)	+1,154 (+1.1pp)	<b>+31.6%</b>
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,094 (4.6%)	<b>4,800</b> (5.2%)	+706 (+0.6pp)	<b>+17.2%</b>
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	3,050 (3.4%)	<b>3,750</b> (4.0%)	+700 (+0.6pp)	<b>+22.9%</b>

※pp=パーセンテージポイント

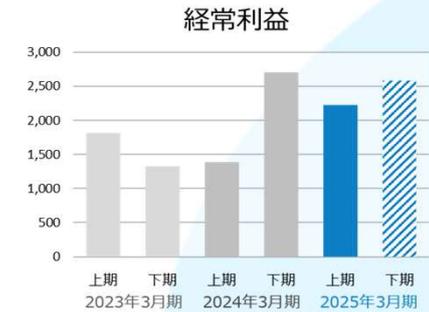
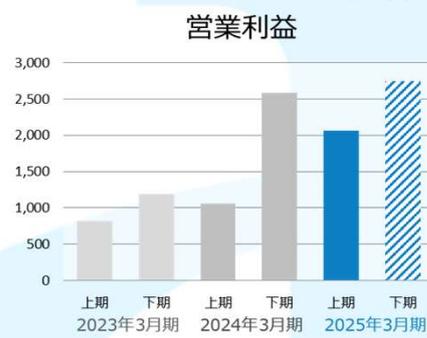
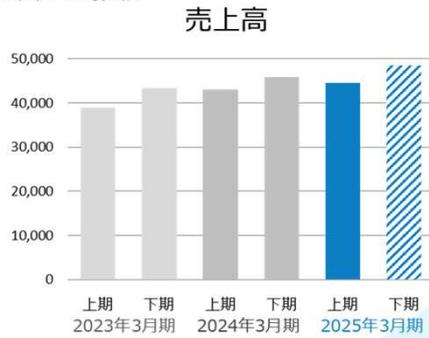
当期の通期予想は、売上高930億円、営業利益48億円、経常利益48億円、当期純利益37億5千万円と期初計画を据え置きます。

外部環境は依然として不透明感が続くものと予想していますが、外部要因の変化に伴う諸経費増を合理化や変動対応で吸収する等、スピード感を持って取組むことで、収益向上を実現してまいります。

### 3. 2025年3月期通期業績予想

#### 経営予想推移

(単位：百万円)



これは、過去3年間の業績を半期毎の推移で示したものです。

今年度下期の売上高は、一部の自動車メーカーの生産減少はあるものの、インド、米国等の伸長により増収を見込んでおります。

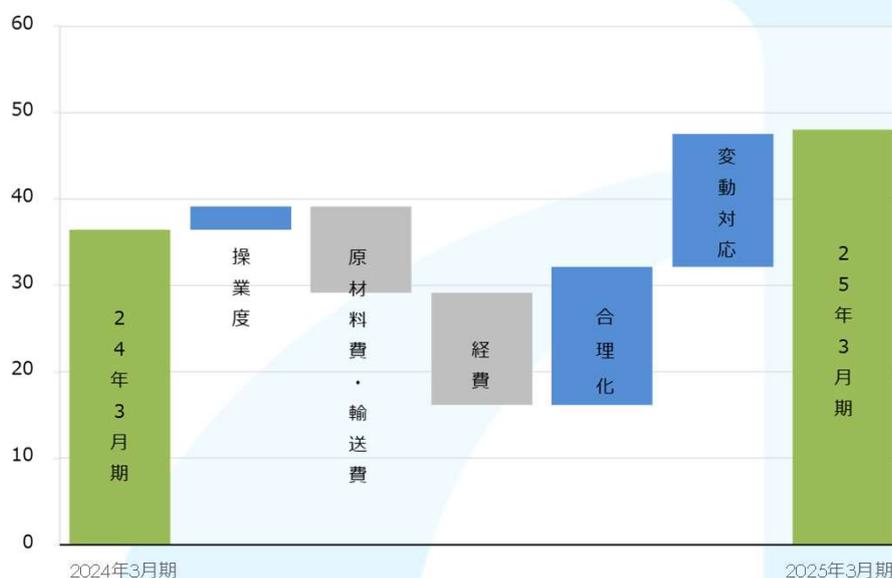
また、合理化の改善努力や変動対応への取組み効果が更に出て来ることで、全ての利益段階におきまして、増益を計画しております。

なお、営業利益増益の詳細につきましては、次のページで説明いたします。

### 3. 2025年3月期通期業績予想

差異要因 営業利益（前期比）

（単位：億円）



このグラフは、対前年比通期連結営業利益の増減を要因別に示したものです。

マイナス要因として、下期からの操業度増加は見込めず、原材料費や経費の増加影響が引き続き残るものと予想されます。

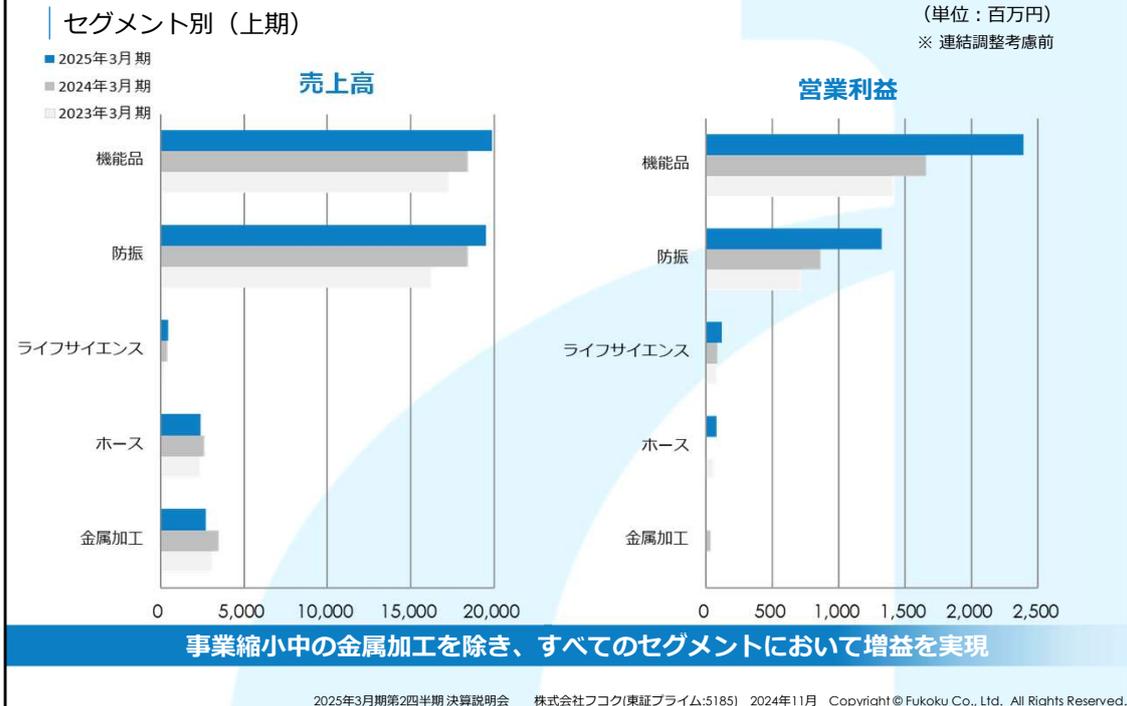
その一方で、プラス要因として、2点挙げられます。1点目は、合理化案件です。上期に種まきをした検査工程の自動化や歩留まり向上等です。2点目は、変動対応です。グループ全体で取組みを進めてきた各種の変動対応が、年間ベースで収益貢献してきます。

これら2点のプラス要因により、通期の営業利益は、期初計画通り、48億円を達成してまいります。

## 4. セグメント別・地域別の状況

次は、セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。

#### 4. セグメント別・地域別の状況



まず、セグメント別の状況です。

グラフは、2023年3月期から2025年3月期までの上期の推移がわかるように示しています。

上から順に、機能品・防振・ライフサイエンス・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。

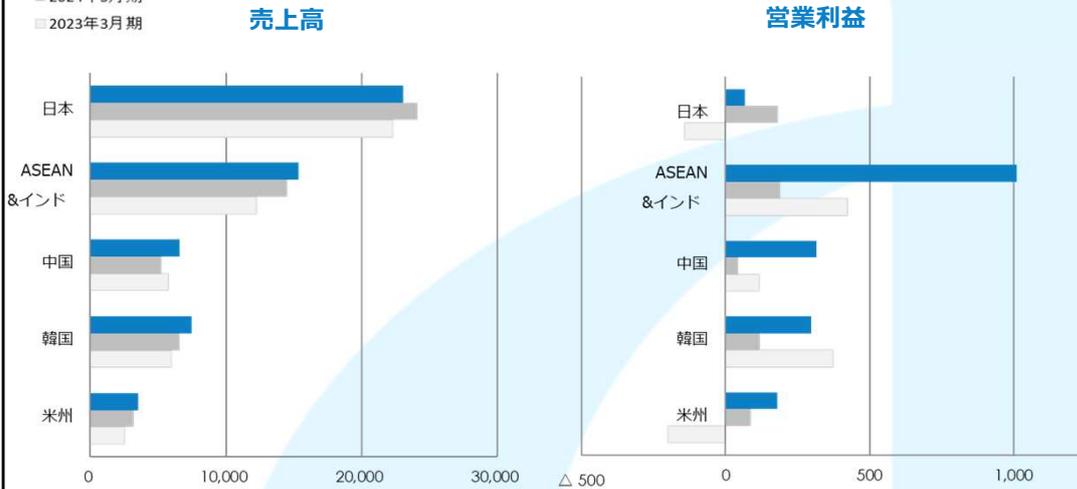
2025年3月期上期は、事業縮小中の金属加工を除いて、すべてのセグメントにおいて増益を実現いたしました。

#### 4. セグメント別・地域別の状況

##### 地域別（上期）

■ 2025年3月期  
■ 2024年3月期  
■ 2023年3月期

（単位：百万円）  
※ 連結調整考慮前



日本は採算性向上のため非採算部品の事業縮小をするも、海外においては増収・増益を達成

次は、地域別の状況です。セグメント状況と同様に年度ごとの推移で示しています。2025年3月期上期の営業利益は、日本につきましては、採算性向上のため非採算部品の事業縮小に努めていること、日系自動車メーカーの認証問題による影響等により減収、歩留まり向上などの合理化、調達先の変更等の改善努力や、変動対応等を実施しましたが、減益となりました。下期は、上期に種まきをした合理化活動の刈り取りと、変動対応の活動を進めることで挽回する予定です。

アセアン・インドにつきましては、インドにて防振製品、タイにて中国向け機能品製品の販売が伸長したことにより増収となりました。タイにて歩留まり向上などの合理化活動が収益に大幅に寄与しております。

中国につきましては、中国経済の低迷や、中国市場における日系自動車メーカーの需要伸び悩みの影響を受けましたけれども、中国メーカー向け機能品製品の販売が伸長したこと、及びグローバルでの最適地生産や省人化、歩留まり向上などの合理化対策が奏功し、売上・利益ともに前年を上回りました。下期は、引き続き、省人化、合理化努力、中国メーカーへの拡販を進めることで、需要低迷の影響を最小限に留めてまいります。

韓国につきましては、米国向けの需要が好調であったこと、また、為替の影響を受けて増収増益となりました。尚、EV関連の新製品であるGap fillerについては下期から量産開始をしております。

米州につきましては、米国における国内需要が好調に推移したほか、グローバル最適地生産や合理化による改善努力などを進めたことで、増収増益となりました。

## 5. 株主還元

続きまして、株主還元についてご説明いたします。

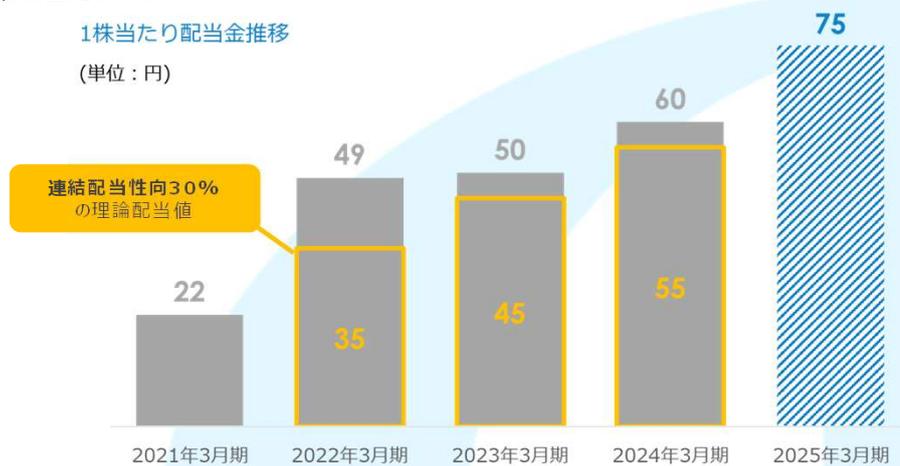
## 5. 株主還元

### 株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- 連結配当性向30%を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限  
※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 配当金について

1株当たり配当金推移  
(単位：円)



2025年3月期第2四半期 決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2024年11月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針と考えております。

これに基づき2025年3月期の中間配当は当初の計画通り37.5円といたしました。

2025年3月期の期末配当は、日系自動車メーカーの生産台数減少や原材料や資源価格高騰による物価上昇の懸念もありますが、計画通りの37.5円、通期で75円の配当を計画しております。

## 6. 新中期経営計画2026の進捗

続きましてここからは、  
新中期経営計画の進捗につきましてご説明いたします。

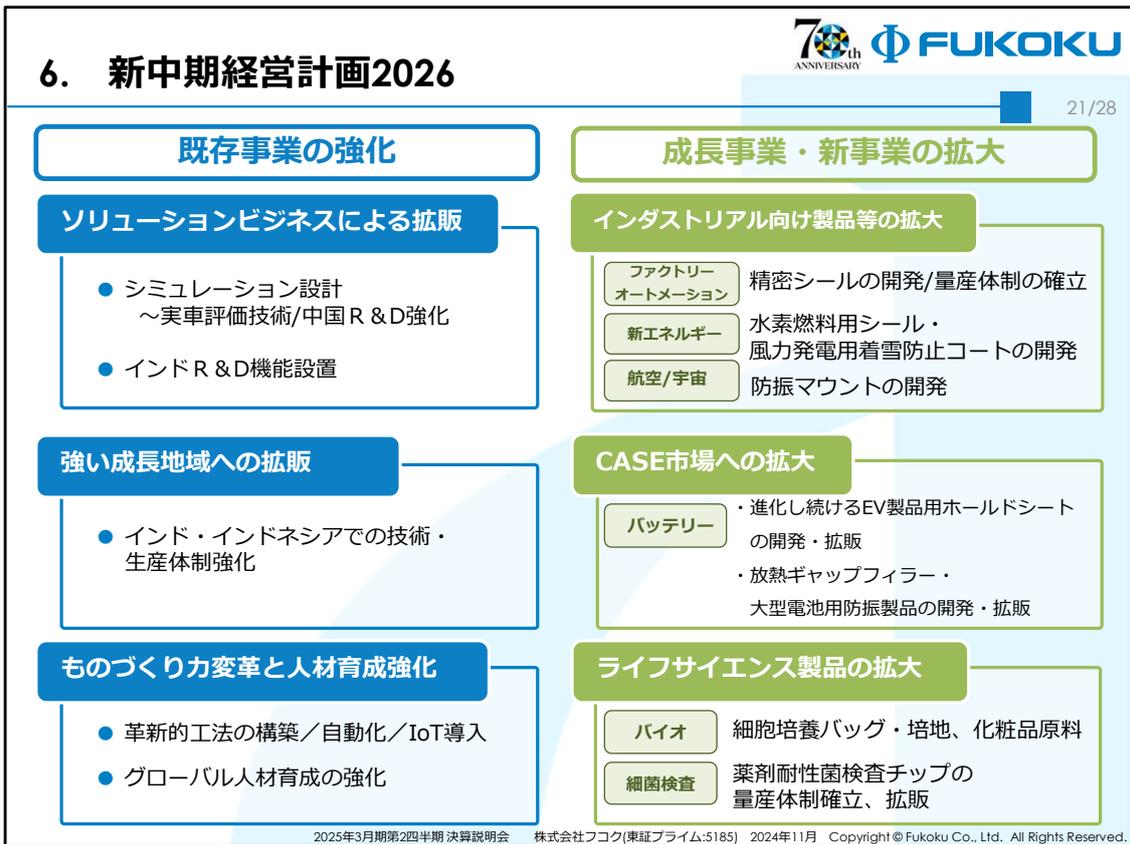
## 6. 新中期経営計画2026

### 戦略スキーム・目標値



新中期経営計画では「既存事業の強化」と「成長事業・新事業の拡大」の事業戦略の両輪に加え、ESGを主体とした経営基盤の改革に取り組むことによって「収益力の最大化」を狙います。

数値目標につきましては、ご覧のグラフに示しますように、2026年度に売上高1,200億円、営業利益率8%、ROE12%と設定いたしました。長期的視点においては、2030年度に売上高1,500億円を目指していきます。



次に、先ほどの数値目標を達成するための方策がこちらとなります。

今回は、最初に「既存事業の強化」にて、強い成長地域への拡販として、インドにおける技術・生産体制強化の進捗状況と、「成長事業・新事業の拡大」につきましては、今後、特に成長が見込める「ライフサイエンス製品の拡大」についての詳細な説明をさせていただきます。

最後に、より成長事業・新事業の拡大を推進するための場として、ΦコミュニケーションHUBを開設しており、そのご説明をさせていただきます。

## 6. 新中期経営計画2026

### 強い成長地域への拡販 インド

プネ 工場  
テクニカルセンター（準備中）



ベルガウム 鋳物工場



グルグラム 営業所（新設）



コールハーブル 鋳物工場（生産準備中）

強い成長地域への拡販として、インドにおいて工場の増強、テクニカルセンター及び営業所の開設を進めております。

好調なインド市場では、マルチスズキを筆頭に自動車生産量の伸びが急激なため、供給量確保が急務となっています。  
防振製品であります、ダンパープーリーの生産に欠かせない良質な鋳物部品の量を確保するために、コールハーブルに、2つ目の鋳物工場を取得し、量産立ち上げ準備を急いでおります。

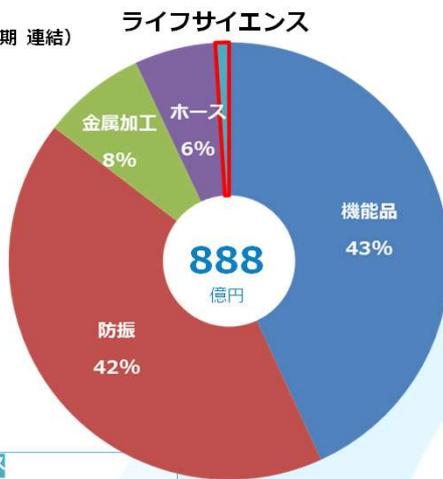
また、防振製品の現地完結型開発要求に対応すべく、営業技術拠点は既に開設したほか、テクニカルセンターの開設準備も進めております。

今後も成長が見込まれるインドにおいて、事業の拡大を図るため、引き続き体制の整備を進めていきます。

## 6. 新中期経営計画2026

### ライフサイエンス製品の拡大

事業別売上  
(2024年3月期 連結)



ライフサイエンス製品の拡大として、ライフサイエンス事業について説明します。

当社は、8割以上の売上が自動車向けとなっており、EV等の新規製品及び既存製品の拡販を進めていますが、自動車以外の分野についても拡販に取り組んでいます。

当社の昨年度の売上888億円のうち、ライフサイエンス事業の売上は1%程度になりますが、今後拡大が見込まれる再生医療などライフサイエンス分野に当社の技術を生かした製品を開発し、売上を伸ばしていく事業として取り組んでおります。

## 6. 新中期経営計画2026

### ライフサイエンス分野への取組み



ゴムから始まる独自の技術でライフサイエンスの未来を創造

当社のライフサイエンス事業は、1995年の点滴用ゴム栓から始まり、次に、プラスチックフィルムを主体とした医療用容器である点滴用バッグやキット製品へ進化してまいりました。

こうした医療用容器で培ったプラスチック加工技術と材質評価技術を基に、再生医療の分野に新規参入し、バッグ、培地、化粧品原料と、事業の幅を広げてきております。

## 6. 新中期経営計画2026

### ライフサイエンス関連製品

#### 設計、開発力でライフサイエンス市場を開拓

##### 細胞培養バッグ



##### 培地



##### 化粧品原料



用途（培養、保存、運搬等）や細胞（リンパ球、間葉系幹細胞等）に合わせた自由度の高い設計、開発でトータル提案

次に、ライフサイエンス事業の製品として、培養バッグ、細胞を培養する細胞培養用液体培地、細胞培養技術を用いて自社で製品化した化粧品原料となります。

当社はこうした製品の設計、開発、製品化の力を有しており、培養バッグについては、保存や運搬含めた多用途への拡販を、培地については、従来のリンパ球市場に留まらず、今後も市場拡大が予想される培地市場への拡販を、化粧品をはじめとする順化培養液の用途拡大にも積極的に取り組んでまいります。

顧客のニーズを踏まえたトータルな提案を行うことで、さらなる拡販に取り組み、ライフサイエンス分野の拡大を図ってまいります。

## 6. 新中期経営計画2026

### Φ (PHI)コミュニケーションHUB新設



次に、新規事業の拡大として、ニュースリリースさせていただきました通り、事業創造室を立ち上げ、専任の技術者や営業マンが駐在し、お客様に当社の技術を「見て」「触って」体感できるイノベーティブなコミュニケーション空間「ΦコミュニケーションHUB」を愛知県の三河安城に今年10月1日にオープンしました。

ΦコミュニケーションHUBでは、当社の技術を体感していただけるよう、技術展示を行うとともに、お客様とコミュニケーションを深めることで、お客様のあらゆる願いや課題、困りごとを共有して当社からの新たなソリューションの提供によって、事業創造につなげる活動を進めています。

投資家の皆さまにも、ゴムを知り、フコクを知っていただく場として、是非ご利用いただきたいと考えております。



フコクは、常に挑戦を続け、時代の変化に柔軟に対応し、サステイナブルな社会の実現に貢献できる「心から愛される企業」を目指します。

今後ともご指導、ご支援を賜わりますようお願い申し上げます。  
以上で、終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。



#### 注意事項

- 本資料は、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性が内蔵しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

2024年11月15日 株式会社フコク

## Appendix

---

# 1. その他指標

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)

